

心理福祉分野の 学士力基準構築と人材の育成



帝塚山大学 心理福祉学部 学部長 蓮花 一己
Kazumi Renge

本取組では、心理福祉分野において、地域支援に必要な実践力を備えた高度専門的職業人を育成するために、心理福祉学部の教育カリキュラムを再編成して、実践的教育を展開します。取組の背景として、自殺やいじめ、不登校など、今日の様々な社会問題の急増があります。大学は、こうした社会問題の解決に対処できる人材を果たして育成できているのでしょうか。そうした専門的職業人に必要な資質とはいったいどのようなものなのでしょうか。そして、どのように、職業人を育成すれば良いのでしょうか。我々は、本取組において、こうした課題に真正面から取り組もうと考えています。

本取組では、上記の専門的職業人を育成するために、(1)心理学・社会福祉学の分野における質の高い学士力を育成すること、(2)その教育効果を評価する本学独自のシステムを構築することを目的として設定します。このために、帝塚山大学心理福祉学部が中心となり、大学院人文科学研究科臨床社会心理学専攻と「心のケアセンター」が協力することで、心理福祉分野における効果的な教育を実施します。

取組の内容としては次の3点を想定しています。

①学部学科における学習成果の設定

本取組では、帝塚山大学独自の「心理福祉分野学士力基準」を構築します。この基準は、「専門知識」「研究実践能力」「応用実践能力」の3領域に分けることができます。また、それぞれの領域における具体的な目標を設定して、そのためのカリキュラムを構築していきます。

②教育課程の体系化・構造化

本取組では、「コアカリキュラム」「地域支援カリキュラム」「プロジェクトチーム活動」の3本柱によりカリキュラムを編成します。「コアカリキュラム」は、従来の心理福祉学部における基礎・理論科目群からなっています。「地域支援カリキュラム」は、とくに実践能力育成を目指して「地域支援論」を開講するとともに、「グループカウンセリング実習」や「アドベンチャーカウンセリング」など関連の強い実習中心の科目群から構成されています。「プロジェクトチーム活動」は、「心のケアセンター」での子育て支援活動や地域のスクールサポーター活動など、内外の実際のフィールドでの実践活動経験を積ませることで資質向上を図るものです。

③「問題解決場面での応用実践能力」に関わる達成度評価システムの構築

本取組では、②における応用実践能力に関わる達成度評価システムの構築のために、「学習ポートフォリオを用いたネットワーク型教育評価システム」の導入や「テキストマイニング手法」を用いたレポート評価・活動実績評価、学生自身の自己目標設定方式での到達度評価などを組み合わせた最先端のシステムを取り入れます。

もちろん、これらの活動を推進するためには、教職員や学生たちの努力だけでなく、これまで培ってきた地域社会での行政組織や民間団体とのネットワークを活用したいと考えています。シンポジウムやワークショップなどで地域の皆様と交流する機会を持ちたいと思いますので、その際にはぜひお越しいただいてご指導いただければ幸いです。

心理福祉学部シンポジウム

帝塚山大学心理福祉学部はここ数年来、地域のなかで様々な問題を抱える人たちに対して、学生をボランティアなどの形で関わらせて、その方達を支援しつつ学生本人の実践的な学びを促進していく教育手法を重視しています。フィールドとしては、大学内だけでなく、近隣の小中学校においても様々な活動を行っています。このシンポジウムでは、実際にそのような地域との連携のなかで教育効果をあげている本学の各取組の関係者が現状を発表し、パネルディスカッションを通じて今後の課題や展望を明らかにすることを目指しました。

当日は、他大学や本学の学生、教職員、福祉施設職員、

地域の方など、40名を越える参加者があり、アンケートには「地域連携をして社会貢献をしていることがよくわかりました」「学生のうちに現場を見ることは非常によい体験になるのではないかと思います」などの意見が寄せられました。本学の取組を広く地域に知ってもらうとともに、現段階での成果と課題を振り返ることができました。今後の展望としては、学生の成長を評価する心理福祉学部独自の基準をより明確化し、単に活動に参加しただけで終わるのではなく、各活動を通して学生の育成につなげていきたいと考えています。

主題：「こころのケアとサポートの教育－地域連携における現状と今後の展望」

日時：平成23年2月17日(木) 14時から17時

会場：帝塚山大学学園前キャンパス 16501教室

コーディネーター：帝塚山大学 心理福祉学部長 蓮花 一己

基調講演：九州大学留学生センター 高松 里 氏

シンポジスト：帝塚山大学心理福祉学部地域福祉学科 杉本 正

帝塚山大学心理福祉学部心理学科 小西 浩嗣

帝塚山大学心理福祉学部心理学科 中地 展生

帝塚山大学心理福祉学部心理学科 神澤 創

主催：帝塚山大学 後援：奈良県、奈良市教育委員会、生駒市教育委員会



プロジェクトチーム活動

1. のびのびクラス(たんぼぼグループ、ひまわりグループ)

日時：平成22年11月～平成23年3月の間の隔週 各グループ計8回 場所：心のケアセンター

「のびのびクラス」は、社会的場面において問題を抱える小学校1年生から4年生までの児童に対し、グループ活動を通してコミュニケーションの力や社会的スキルの向上を目指し、発達を促していくことを目的としたクラスです。子どもグループ、保護者グループ、託児の3つにグループが分かれています。子どもグループでは、工

作や感覚遊び、クッキング等の共同作業を通して、子ども同士が楽しめる時間を共にすることを目的としています。今回は、たんぼぼグループには6名、ひまわりグループには5名の参加者がいました。保護者グループでは、保護者同士が情報交換や体験を語り合う場の提供することを目的としています。

2. アドベンチャーカウンセリング

1 交野市教育委員会との教育提携

現代GPの採択、交野市教育委員会との教育充実に向けた協定締結により平成19年度からは年間を通じて市長宝寺小学校でのアドベンチャーカウンセリング授業の実施や教職員を対象とした研修(全市および

各校)を開始しました。平成21度からは長宝寺小学校に加え、倉治小学校へもアドベンチャーカウンセリングの取り組みが導入され、本年度は2校に対して月2回ずつアドベンチャーカウンセリング授業を実施しています。

○本年度の実績

長宝寺小学校での授業実施

平成22年5月～平成23年3月 授業回数17回 スタッフ派遣 延べ(教員)28人・(学生)72人

倉治小学校での授業実施

平成22年5月～平成23年2月 授業回数17回 スタッフ派遣 延べ(教員)32人・(学生)54人

教職員研修 8/25 長宝寺小学校(帝塚山コースにて)16人 2/1 交野小学校(校内研修)30人

8/26 倉治小学校(帝塚山コースにて)22人 2/15 長宝寺小学校(校内研修)13人

2 大阪府立子どもライフサポートセンターにおけるアドベンチャーカウンセリング

大阪府立子どもライフサポートセンターでは、児童福祉法の範囲の児童の不登校支援・引きこもり支援を行っています。昨年10月に本学との間で「アドベンチャーカウンセリングによる心の教育支援に関する協定」を結び、教員および学生を派遣して2011年3月まで毎月

2回アドベンチャーカウンセリングの手法を導入したプログラムを実施しています。前半が終わった時点では、児童・職員とも楽しく参加できている印象と現時点での変化は見られないが、回数を重ねると明確な変化は見られるだろうという期待の声があがっています。

○活動実績

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 第1回2010年10月14日(木) 児童16人、スタッフ9人 | 第6回2011年1月13日(木) 児童15人、スタッフ9人 |
| 第2回2010年10月28日(木) 児童14人、スタッフ8人 | 第7回2011年1月27日(木) 児童14人、スタッフ7人 |
| 第3回2010年11月4日(木) 児童16人、スタッフ9人 | 第8回2011年2月10日(木) 児童9人、スタッフ5人 |
| 第4回2010年11月25日(木) 児童6人、スタッフ5人 | 第9回2011年2月16日(水) 児童7人、スタッフ5人 |
| 第5回2010年12月16日(木) 児童11人、スタッフ8人 | |

○今後の予定

- 第10回2011年3月3日(木) 第11回2011年3月17日(木)
※帝塚山アドベンチャーコースでの実施予定

3. 学生サポーター派遣事業

平成18年8月に生駒市と帝塚山大学との全面的協定が結ばれたのをきっかけとして、生駒市教育委員会と連携して、心理福祉教育推進室が学生ボランティアを募り、生駒市内の学校や適応指導教室などに学生を派遣しています。現在のところ、生駒市の小学校に5名、中学校に1名、適応指導教室に3名の大学院生・学部生を派遣しています。

学生サポーターが孤立せず、派遣先できちんとした活動ができるように毎週、外部講師と本学の心理福祉教育推進室のスタッフが協力して研修会を行い、定期的なフォローを行っています。来年度はさらに、サポーターの数を充実させて、派遣前の事前研修会と派遣後の定期的な研修会を継続して行っていく予定です。



合同フォーラムに参加

平成23年1月24日、25日の2日間にわたり「平成22年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」が東京秋葉原コンベンションホール他周辺会場で開催されました。24日には、黒田壽二氏(金沢工業大学 学園長・総長)が『大学教育改革の意義と必要性 その質保証と情報開示の在り方』という基調講演が行われ、午後からは分科会も開催されました。それと同時に120の大学や

学校のポスターセッションがあり、情報交換が行われました。25日には、『高度専門人材の基盤的教育の推進』という題目で分科会が行われました。その他は123の大学や学校がポスターセッションを行っていました。数多くの大学や学校が参加をしており、今後の取組の参考となるような情報収集もできました。

心理福祉勉強会

1) 精神分析の立場から

志満慈子先生（臨床心理士）をお招きして「子どもとの関わりに生かす対象関係論－児童養護施設での経験から」というタイトルで勉強会を行い本学の教員や学生40名以上が参加しました。まず、精神分析クライン学派についての簡単な講義があり、次に志満先生が長年の臨床のフィールドとされている児童養護施設での心理職の仕事について、体験談を交えながら話をいただきました。当日は学部生も多く参加し、質疑応答などでも積極的に発言をする場面も見られて、貴重な学習の場になりました。



2) 発達障害について

講演者に発達障害児を持つお母さんをお招きして「発達障害の子どもさんを持つ保護者の体験談を聞こう！～発達障害の理解と支援のために～」というテーマで心理福祉勉強会を行いました。今回の心理福祉勉強会では、講義を聞くことで発達障害の理解を深めるこ

とができました。そして、参加者が心理的擬似体験のプログラムを経験することを通して、子どもたちが教室で経験している学習におけるつまづきを知り、それに対して教師や専門家として、どのように子どもたちに関わっていくかを学ばせてもらう機会になりました。



今後の取組の予定

【今年度の予定】

- 平成23年3月16日(水) 外部評価委員会を開催
- 平成23年3月25日(金) 心理福祉教育推進委員会を開催

【来年度前半予定】

- 平成23年4月～ 学生サポーター 募集開始・事前研修を開始
5月～7月 本格派遣・事前研修・事後研修
 - 平成23年4月～ 新設科目案「地域支援論」が開講
 - 平成23年7月 第2回心理福祉学部シンポジウムを開催予定
 - 平成23年4月～ アドベンチャーカウンセリングを用いた交野市内の小学校や大阪府立子どもライフサポートセンターへの支援活動を継続
 - 平成23年5月～ のびのびクラスの活動を継続
- ※ その他、心理福祉勉強会も2回実施予定



帝塚山大学
TEZUKAYAMA UNIVERSITY
<http://www.tezukayama-u.ac.jp/>



KIZUNA

編集・発行者

帝塚山大学 心理福祉教育推進室 〒631-8585 奈良市学園南3-1-3
TEL : 0742-41-4499 FAX : 0742-41-4491

http://www.tezukayama-u.ac.jp/special/gp/2010/education_reform/